

# 東京都市大学 建築都市デザイン学部 建築学科 小林研究室

Kobayashi Laboratory, Department of Architecture, Faculty of Architecture and Urban Design, Tokyo City University

専門会員  
小林 茂雄  
Shigeo Kobayashi

東京都市大学  
建築都市デザイン学部  
建築学科 教授

小林研究室は、学部生と院生合わせて毎年20名ほどで活動している。約半数は女性である。学生が主体的にテーマを立てて研究しているが、立案した学生だけが研究に関わるわけではない。基本的にはメンバーの全員が、全ての研究テーマに参加しながら進めている。協同しながら研究を行うことに研究室の特徴がある。個人の時間や全体の労力は多くなるが、新しく多様なアイデアが生まれやすく、議論も深まりやすい。また研究活動を通して、屋外空間での照明設置活動や実験での連携が取りやすくなる。近年の就職先は、組織設計事務所やゼネコンの電気設計が多い。学生は当初は照明デザインの道に進もうとする傾向にあるが、仕事環境を調べる中で方向性を変えていくようだ。

研究室では、光が人の心理や行動に与える影響をテーマとし、状況や用途に合った効果的な照明設計方法を提案している。2006年の富山県五箇山相倉合掌造り集落のライトアップ

を始めとして、地域の魅力を高めるような光を通したまちづくりにも注力している。山形県金山町中心部の街並み照明計画や都立大学駅前の桜並木のライトアップは、毎年続く研究室の恒例行事である。2011年の東日本大震災以降は、岩手県釜石市、陸前高田市、宮城県気仙沼市などにおいて、高台への避難を誘導しながらその地形や歴史を可視化するような照明設置活動を行っている。照明の社会実験は、東京都市大学客員教授の角舘政英さんと協同している。

図1は、舞台芸術などに用いられる

インタラクティブな照明演出を、誰でも通行できる屋外空間で実施し、その場所への興味を惹き付けることに取り組んだものである。カメラで取得した人の動きを画像解析し、照明に反映させている。照明の動きや明るさや色を人の動きに追従するように変化させることで、狙う方向に人を回遊させたり滞留させたりすることができる。併せてその場所ならではの特徴（この場合は隣接する川）をイメージさせるなど、場所に対する興味付けからの地域創生へと結びつけようとしている。



図1 人の動きに追従する波紋のライトアップ